

長畝ふるさと通信

【2012年4月号】

■ 爆弾低気圧来襲

4月3日、爆弾低気圧が佐渡を襲いました。夜半から吹き荒れた暴風は佐渡観測史上最高の風速43メートルを記録しました。集落のあちらこちらで木がなぎ倒され、組合の育苗ハウスや施設も大きな損害を受けました。



丁度、播種期を迎えた育苗ハウスは全島各地で大損害を受け、JAやホームセンターのビニールの在庫は一瞬で無くなったそうです。組合の育苗ハウスは特に大きいのでビニールも特注品で、入荷までに時間がかかりましたが、何とか見えそうな部分をつぎはぎして応急処置をし、対応しました。当初、あまりの被害の大きさに呆然としましたが、組合員の全面的な協力を得て、早期に復旧できたことはあらためて組織の強さを痛感しました。結果的に播種は通常の年より3~4日遅れましたが、5月の田植えには間に合いそうです。



● 組合員総出でハウスの修理に、足下には4月だというのに雪が残っています。

● ハウスのビニールが引き裂かれて飛ばされ、電柱に引っかかっています。強風にあおられ、旗のようにバタバタと大きな音を立ててなびいています。

■ 種まき開始



爆弾低気圧でやられた育苗ハウスの修復の合間を縫って、種まきをしました。4月6日から25日までの間に延べ5回、約19,000箱を播種しました。1回に4,500箱を播種し、室内を30度に設定した催芽庫で3日間寝かせると、白い芽が揃って発芽します。それを育苗ハウスに運搬して1枚ずつ並べ、緑化するまでさらに3日、水分蒸発を防ぐため、反射シートをかけておきます。

すると目にも鮮やかな緑の絨毯が……。このサイクルを5回繰り返します。

緑化した苗は毎日たっぷりと水を与え、育苗ハウスの中でゆっくりと成長し、田植えを待ちます。「苗半作」という言葉があるように、しっかりとした苗ができれば、稲作の半分は成功と言われています。それだけに1年の内で一番神経を使う時期でもあります。爆弾低気圧のおかげで、余計な仕事が増え、振り返ると4月はほとんど無休状態でした。それでも痩せないのは……のおかげ？



■ 畦塗りはこうして……(畦塗りとは田んぼに張った水が漏れないようにする技術です)

今では大半がトラクターで畦塗りをしますが、昔ながらの人力畦塗りも健在です。何となく「農業してる」って気になるもんです。



- ① 畦をスコップで切ります。この時、畦が真っ直ぐになるよう糸を張ります。
- ② 田んぼに水を張ってトラクターで耕耘し、土を細かく軟らかくしたあと、切った畦に塗る土を寄せます。
- ③ 寄せた土が程よく乾いたら、畦に土を塗りつけていきます。(結構しんどい)



④クワを使って舎監さんの要領で、平らに塗っていきます。(ちょっと職人気分)

⑤完成！技術の差は誰の目にもわかります。(要は水が漏らなきやいいわけよ)

■ ようやく春の訪れ

4月になっても雪が降り、暴風が吹き荒れる異常気象に翻弄されましたが、ここへ来て佐渡にもようやく春が来たようです。



- 15日は祭り。すっきりと晴れた青空の下、1日中、鬼太鼓の太鼓の音が響きました。



- 近くの山でとったタラの芽です。天ぷらがサイコー！春の味です。



- 今、佐渡ではトキのヒナが生まれたニュースで大盛り上がりです。トキの野生復帰を応援してきた百姓として大変うれしいです。ようやくトキと人が共生できる環境が少しではありますが整ってきたんだな～と感じています。「トキがいる島」ではなく「トキが棲める島」を目指して、これからも頑張っていきたいと思えます。

- 苗もこんなに大きくなりました。今年も美味しいお米をお届けします。